

新技術 解説

果実浸漬法によるオウトウショウジョウバエ卵の薬剤感受性検定の試行

山口県農林総合技術センター ^{みぞ}溝 ^べ部 ^{しん}信 ^じ二

はじめに

オウトウショウジョウバエ *Drosophila suzukii* (Matsumura) は、オウトウの害虫として知られている。雌は腹部先端に鋸状の導卵管(図-1)を持つこと、雄は翅の先端前縁に三角形の黒い斑紋があり、前脚跗節の性櫛(せいしつ)(図-2)の特徴で種を識別できる(和多田, 2006)。本虫は健全な果実に穴をあけて産卵し、産卵痕には卵柄と呼ばれる2本の糸状突起が突出する(佐々木, 2000)。ふ化した幼虫は果実内を食害するため、被害果は軟化・腐敗し商品価値がなくなる。産卵された果実と健全果は識別が困難であるため、出荷された後に果実から脱出した幼虫が見つかり(図-3)、大きな問題となることがある(川瀬ら, 2008)。オウトウショウジョウバエに農薬登録のある薬剤は複数あるが、卵に対する防除効果を確認する方法は確立されていない。そこで、果実を用いた簡易な薬剤感受性検定を試行した。

I オウトウショウジョウバエの寄生する果実

オウトウショウジョウバエの寄生する果実は、オウトウ、ソメイヨシノ、キイチゴ、ナツグミ、クワ、ブルーベリー、ラズベリー、ナワシロイチゴ、モモ、ニワウメ、イヌザクラ、アメリカヤマゴボウ(佐々木, 1998)のほか、ヤマモモ(行成, 1988)、ブドウ(栃木県農業環境指導センター, 2009)等が報告されている。山口県にお



図-1 オウトウショウジョウバエ(♀)
拡大: 鋸状の導卵管。



図-2 オウトウショウジョウバエ(♂)
矢印: 翅端の黒色斑紋, ○印: 前脚跗節の性櫛(せいしつ)。



図-3 ブルーベリー果実から脱出したオウトウショウジョウバエの幼虫

Simple Procedure for Monitoring Insecticide Resistance for Eggs of *Drosophila suzukii* (Diptera: Drosophilidae), Based on Fruits Dipping Method. By Shinji MIZOBE

(キーワード: オウトウショウジョウバエ, 卵, チャック付きポリ袋, 薬剤感受性検定)